

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373400486		
法人名	株式会社 千 樹		
事業所名	グループホームせんじゅ4F		
所在地	愛知県犬山市中山町1丁目38番地		
自己評価作成日	令和5年11月25日	評価結果市町村受理日	令和6年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	令和5年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の希望を常に聞き入れ、穏やかに安心して生活していただけるよう、過ごしやすい雰囲気作りをしている。 ・一人一人の思いや意向に寄り添い支援している。 ・職員が協力し合い、施設内での季節のイベントに力を入れている ・ご家族様が気軽に相談できる雰囲気作りに努めている。 ・家庭生活と変わりなく過ごして頂けることは一緒に行っている。 (掃除・洗濯物たたみ・食事作りなど)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>今年開設20周年となるグループホームせんじゅは変わらず家庭的雰囲気のなか利用者のペースで時間に追われることなく一日を過ごしている。またベテラン職員が多く利用者とは知り合いになって長い為利用者からの信頼と安心が得られている。利用者にあわせて出来る人には掃除や洗濯物たたみ等手伝って貰っている。また利用者に対して寝たきりにならない生活をしようと言う職員共意識を持ち利用者一人ひとりの状態にあわせたケアに努めている。その先輩職員達の日々のケアやターミナルケア等現場の体験から新人職員達は多くを学び、自分自身のスキルアップへと繋がりそれがホーム全体の支援に反映されている。その結果職員間の関係も良好で家族からの信頼も得られている。今後の課題として利用者の介護度に寄って楽しめるケア、地域のグループホームとの交流、職場体験の受け入れ等意欲的な姿勢がホームの反映に繋がっていき見受けられたホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「社会貢献」を社是とし、挨拶・笑顔・感謝を基本姿勢に、スタッフ一人一人が長所を伸ばし、長所を活かせるようプラス思考で前向きに行動することとして実行しています。毎朝朝礼時に職員一同唱和し、一日実行できるようにしています。	挨拶、笑顔、感謝の基本姿勢とスタッフ理念を各ユニット毎に朝礼時に唱和し意識付けを図って共有している。利用者にもスタッフ理念の長所を伸ばし、長所を活かすを重ね利用者の長所を伸ばし長所が活かせるようなケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所前の公園に散歩をし、近所の方と交流しています。馴染みの喫茶店へモーニングを食べに行き他の常連のお客さんとの交流も深めています。	散歩時や喫茶店に出掛けた際は地域住民と挨拶を交わすなど交流が図られている。またホーム見学の問い合わせや来訪も受けている。地域の消防署員に寄るAED使用、救命救急講習を受け救命時の再確認を行っている。学生の管理栄養士の体験実習の受け入れも今後実施される予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベントの飾りつけの手伝いをし、イベント参加、交流後は、ケーブルテレビの取材も受けました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者が実際に体験しているイベントや防災・食事等をお便りなどでご家族にも周知して頂いています。ヒヤリハットや事故なども書面にてどのように対応し、改善しているのかを報告しています。	運営推進会議は紙面と対面で年六回開催されている。会議ではホームの状況、行事、ヒヤリハット、事故事例等を報告し、ヒヤリハット、事故事例については原因と再発防止策を毎回きちんと記載し報告されている。自治会長、民生委員には都度会議の参加を呼び掛けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、常に連絡・報告・相談をしています。状況の変化、実情を伝えながら、連携・協力をお願いしています。職員のレベル向上にも協力をお願いしています。	市の担当者とは電話やメールで相談や助言を受けたり、ホームのイベントに参加の依頼するなど日頃から様々な連携が図られている。また市作成の接遇、虐待等を題材とした研修DVDやURLからの研修動画は職員のスキルアップに活かされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し3ヶ月ごとに研修を行い正しく理解が得られるよう取り組んでいます。	職員は研修を通して身体拘束の内容を理解している。入口の施錠は行わずベッド柵の使用は家族の同意の下安全の為実施されている。スピーチロックについても理解しているが、ケアのなかで何か不適切な言葉など見受けられたら管理者はその都度指導を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を受けた者が講師となり、「虐待の内容」・「虐待防止」について職員向けに講義をして、虐待が発生しないようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度などの研修が開催されたときには、その研修が受講できるように体制を整えています。また、研修後はカンファレンスやミーティングなどで研修報告をもらい、職員に伝達しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、「重要事項説明書」「契約書」をきちんと説明し、納得して頂いた上で同意を得るように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会などで家族の意見や要望を聴取しています。その意見や要望を運営に活かしています。	意見箱を設置し家族の意見、要望を受けとめる仕組みがある。利用者の意見要望は入浴時に聞ける機会が多く内容を職員間で共有されケアに活かされる。また家族からの意見要望等面会時やライン等で何か出されたらラインワークスで共有され速やかな対応に心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「スタッフ意見ノート」に記入したり、会議・ミーティングなどで意見や要望を聞いたりしています。また、その意見や要望を業務改善等に役立てています。	個人面談は特に設けて無いがその都度管理者は職員に寄り添い思いや意見等を聞き出している。「意見ノート」の活用やカンファレンスで話し合っ、利用者の食事形態、入浴、介護方法等についての前向きな意見、提案が出され、出来ることは直ぐケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力に合わせて、役割・担当を決めて、やりがいを持って働けるように努めています。パートから社員への登用など実施しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	レベルアップを図るため、職員の望む勉強会などを実施しています。外部の研修会にも参加できるように研修の情報は伝え、参加者については勤務の調整などしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ICTを活用した防災訓練等で同業者との交流を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活歴、趣味、嗜好等をアセスメントし、その方の要望に傾聴しながら、介護プランを作成し、そのことを職員全員が共通認識の下に介護が出来、不安なく生活して頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の生活歴、趣味、嗜好等をアセスメントし、その方の要望に傾聴しながら、介護プランを作成し、そのことを職員全員が共通認識の下に介護が出来、不安なく生活して頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状を把握し、今何が必要かを見極めて、その時必要なサービスをご本人・ご家族と話し合い、臨機応変に対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にご利用者の立場に立ち、個々に合わせて喜びや不安を共有できる関係を築いていけるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が利用者に対して同じ認識が保てるように絶えず連絡し合い、協力し合い、ご本人とご家族が安心して暮らしていけるように配慮しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活歴を大切に、気軽に会いに来て、一緒に外出できるように支援したり、又、手紙のやり取りがいつでも出来るよう支援させて頂いております。	入所時に本人や家族から聞き取りを行っている。面会は予約制で家族、知人等の来訪を受け居室で過ごしている。家族協力の下墓参り、自宅、外食に出掛けたり、はがきが届いたり、職員が代わりに投函するなど馴染みの関係継続の支援に努めている。入所後は近くの喫茶店が馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や昔の遊びなどレクリエーションを実施して、皆様が参加できる時間を多く作り、お互いに関わりが持てるようにし、孤立感を味わうことのないように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても遠慮なく、いつでも家族が相談できるよう支援しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情、態度から本人の真意を察し、望まれている生活に添うことができるよう努めていきます。困難な場合は家族の思いや意向を聞き取り入れています。	日常の会話や言動、表情から希望や意向をくみ取っている。困難な場合は寄り添い選択しやすい言葉がけをすることで反応を見ながら本人の気持ちを探り試しながらより意向に添えるよう努めている。情報は職員ラインワークスで共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	言葉や表情、態度から本人の真意を察し、望まれている生活に添うことができるよう努めていきます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、今の現状を把握し、一人一人に合った環境での支援をしていけるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれご利用者の意向や能力を活かせるように配慮しながら、カンファレンス等で職員の意見を聴取し、またご家族の思いを取り入れながら介護計画を作成しています。	介護計画は担当制をとっておらず、モニタリングは3ヶ月ごとに行われている。職員はカンファレンス時、家族からは面会時に意見や希望を聞き、協力医には往診に状態を報告しアドバイスをもらい介護計画作成に反映している。通常6カ月で、状態変化時には都度見直し現状に即したものとなるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に残し、職員全員がご利用者の状況を共有し、業務に従事するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状況に合わせ、臨機応変に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源を活用し、地域と協力しながらイベント等にも参加できるよう支援し、施設内でのレクレーション等では季節を楽しめる工夫をし、心豊かな生活が送れるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医となっておりますが、当グループホームは、連携医療機関の主治医が月2回往診に来られますので、ご本人・ご家族の希望を優先し決めております。	入居時に意向を確認し現在は全員月2回の協力医往診を受けている。他科受診は家族に通院をお願いしている。希望すれば鍼灸や理学療法士のリハビリを受けることもできる。月2回の歯科の訪問では治療や入れ歯の調整等の治療や口腔ケア指導を受けている。また、看護師が健康管理や相談に関わっており医療連携体制が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携体制をとっており、馴染みの看護師が利用者の健康管理や医療相談に関わっています。 24時間の連携を取っておりますので、夜中でも緊急時には駆けつけていただけます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関と連携を図り、情報交換に努めています。 管理者などが、利用者を見舞い、状況把握に努め、早期の退院の機会を逃さないようにしています。また、退院後も情報交換を常に行い、医療機関の支持を仰ぎながら介護に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時の指針を定め、ご家族に説明し、同意を頂いた方につきましては、医師や看護婦と相談した上でできるだけご家族の意向を汲み取るようにしています。	入居時に重度化に向けた事業所方針を説明し同意を得ている。状態変化時には家族、職員、医師、訪問歯科医等関係者が話し合い意向や協力を確認し情報が共有されている。職員は家族の思いにそった看取りケアを全力で支援している。家族や訪看の言葉を伝えながら管理者は職員の心のケアにも努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々のケアに急変や事故発生等、その都度対応し、後日ミーティング等で見直しをしています。医師、看護師と常に連携を図り、指示を仰いでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、災害時に対応できるように訓練を実施しています。	火災想定避難訓練を8月に実施し、来年2月に夜間想定を予定している。6月には運営推進会議で消防署員より「救命救急及びAEDの使用方法」も学び、職員は避難経路や場所も周知している。人家の少ない近隣環境だが町内会長等と地域との連携を今後進めたいと考えている。水や食料、衛生用品、カセットコンロの備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心を傷つけないよう、さりげない声かけに心掛けています。 一人一人のプライバシーを尊重し、誇りを傷つけない対応を心掛けています。	利用者一人ひとりが心地よく感じる言葉かけや対応を心がけている。まずは信頼関係を築くことに努め、目上の人であることを忘れず誇りやプライバシーを損ねない配慮をもって失禁時や不安・不穏時に向き合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	上手に表現できない方の表情や動作など見逃さないよう、何を伝えたいのか把握できるように努めています。また、ご本人が自己決定できるように、出来るだけ多くの選択肢を提案し、個人の希望に答えられるよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはありますがご本人の希望を優先して過ごしていただけるよう、また、ご本人の気持ちを尊重して臨機応変に対応しています。 生活の流れを職員が決めるのではなく、利用者様本位の流れで生活できるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装はご本人に選んでいただけるようにし、毎日のお化粧も変わらずできるように環境を整え、希望される化粧品等は買い物代行し、おしゃれを楽しむ気持ちを無くさないように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はスタッフと一緒に取り、コミュニケーションを取りながら、楽しく食事が出来るような雰囲気作りを心掛けています。また、希望を取り入れながら、一緒に献立を考えています。	昼食はデイサービスの配食を利用し朝晩は利用者の希望を取り入れながら手作りしている。朴葉ずしや流しそうめん、おせち料理等で季節を感じたり、ホットプレートでおやつ作りをすることもある。食べ具合を見ながら個々に合わせた食事形態を工夫し食事が楽しみとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量や水分量を毎回記録し、残食が体調によるものなのか、嗜好によるもののかを把握し、職員が情報を共有して、状況に合わせて調理方法を工夫したりして、栄養が偏らないようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、一人一人ができるだけ自分で実施できるように支援しています。訪問歯科医による口腔ケアの指導も職員が受け実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行う。しぐさや行動などから排泄したかどうかを読み取り、トイレでの排泄を促し、適切な対応ができるようにしています。利用者様の現状に合わせたおむつやリハビリパンツを選択し自立にむけた支援を行っています。	個々の排泄パターンをチェック表で把握し、日中はなるべくトイレでの排泄を支援している。体調不良で排尿の失敗が続いた利用者に職員がさりげなく付き添い根気よく声掛けすることでほぼ自立の状態に回復した事例がある。夜間も利用者本位のケアに徹している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事・繊維質の多い食材を取り入れるなど食事に気をつけています。また、体操など適度な運動を実施し、出来るだけ自然排便が出来るよう心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日・入浴時間は決まっていますが、一人一人の体調、その日の気分や希望に合わせて臨機応変に対応しています。又、季節を感じてもらう為、菖蒲湯やゆず湯を楽しんでいます。	週に3回ほど午前の時間帯で入浴している。拒否があれば時間や職員を変更して対応し、自立度の高い方とはマンツーマン対応時を気持ちの理解や意向確認の場として上手く活用している。入浴剤は使用せずゆず湯や菖蒲湯で季節を感じてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムを大切に、日中の活動を重視しながら、夜間睡眠の妨げにならないように配慮しながら、休息を取って頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・用法・副作用などについて、職員全員が把握し、誤薬、飲み忘れがないように服薬確認を徹底しています。また、服薬時は、ご本人がきちんと飲み終えたかも確認しています。薬の形態を工夫し飲みやすいように工夫をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の長所を活かし、今までされていたことで、出来ることはなるべくしていただけるように、掃除の手伝い、洗濯物たたみなどをしていただき感謝の言葉を伝えるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて普段の外出が困難だが家族やボランティアの協力を得て外出の機会を増やしている。	新型コロナ感染症リスクの落ちつきや利用者の状態、天候を見ながら公園や事業所周辺を散歩している。フロアごとにデイサービスの車を借りて成田さんへの初詣でや公民館行事に参加したり、レイクサイド入鹿やコメダでティータイムを楽しんだりして気分転換になる外出の機会を作っている。家族との外出や外食も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物がある時は買い物リスト等を書き出し、職員が代行にて買い物支援をしています。又、外出時に自分で買い物できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への手紙や年賀状などの発送、受け取りの支援をしたり、電話をかけたい方への支援は随時行っています。 主治医が往診時に、他の施設の入居者様より手紙を預かってきてくれたりします。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食室、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられる作品を一緒に作成し、その作品を展示して、室内にいてもいつも季節が感じられるように工夫しています。また、共有スペースの掃除や洗濯たみなど一緒にいたり、家庭的な雰囲気大切にしています。	事業所が3&4階で広くて大きい窓がある共用空間は明るく、遠くの山々や町の様子が一望できる。利用者の状況に合わせて掲示物の量を加減しながら季節が感じられるよう工夫している。職員によって掃除や換気、食事の際には消毒が徹底され清潔感が感じられる。テーブルの配置や配席は都度見直し居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お話しするスペース、作業をするスペースなど一人一人に合わせた場所作りに努めています。 廊下などに椅子を置くなどの工夫をして、独りになれる個人空間も設けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活で使用していた使い慣れた物を持ってきて頂き、落ち着いた生活、安心して過ごせる空間、希望する空間などの空間作りに配慮しています。 危険のない様、安全に使うよう工夫をしています。	洗面台や衣類用箆筒が設置され、個々の好みや状態に合わせて写真やテレビ、机、趣味の物等が持ちこまれ落ち着いて過ごせる空間となっている。換気や掃除は職員が行っている。 転倒防止や安全面の観点から動きやすい導線の確保に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーや手すりの設置、エレベーター設置など安全に過ごして頂けるようになっています。 見間違えやすいもの、わかりづらいものは出来るだけ無くし、不安のない生活ができるようにしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373400486		
法人名	株式会社 千 樹		
事業所名	グループホームせんじゅ3F		
所在地	愛知県犬山市中山町1丁目38番地		
自己評価作成日	令和5年12月1日	評価結果市町村受理日	令和6年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	令和5年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の希望を常に聞き入れ、穏やかに安心して生活していただけるよう、過ごしやすい雰囲気作りをしている。 ・一人一人の思いや意向に寄り添い支援している。 ・職員が協力し合い、施設内での季節のイベントに力を入れている ・ご家族様が気軽に相談できる雰囲気作りに努めている。 ・家庭生活と変わりなく過ごして頂けるようできることは一緒に行っている。 (掃除・洗濯物たたみ・食事作りなど)
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「社会貢献」を社是とし、挨拶・笑顔・感謝を基本姿勢に、スタッフ一人一人が長所を伸ばし、長所を活かせるようプラス思考で前向きに行動することとして実行しています。毎朝朝礼時に職員一同唱和し、一日実行できるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所前の公園に散歩をし、近所の方と交流しています。馴染みの喫茶店へモーニングを食べに行き他の常連のお客さんとの交流も深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のイベントの飾りつけの手伝いをし、イベント参加、交流後は、ケーブルテレビの取材も受けました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者が実際に体験しているイベントや防災・食事等をお便りなどでご家族にも周知して頂いています。 ヒヤリハットや事故なども書面にてどのように対応し、改善しているのかを報告しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、常に連絡・報告・相談をしています。状況の変化、実情を伝えながら、連携・協力をお願いしています。 職員のレベル向上にも協力をお願いしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し3ヶ月ごとに研修を行い正しく理解が得られるよう取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を受けた者が講師となり、「虐待の内容」・「虐待防止」について職員向けに講義をして、虐待が発生しないようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度などの研修が開催されたときには、その研修が受講できるように体制を整えています。また、研修後はカンファレンスやミーティングなどで研修報告をもらい、職員に伝達しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、「重要事項説明書」「契約書」をきちんと説明し、納得して頂いた上で同意を得るように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会などで家族の意見や要望を聴取しています。 その意見や要望を運営に活かしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「スタッフ意見ノート」に記入したり、会議・ミーティングなどで意見や要望を聞いたりしています。また、その意見や要望を業務改善等に役立てています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力に合わせて、役割・担当を決めて、やりがいを持って働けるように努めています。 パートから社員への登用など実施しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	レベルアップを図るため、職員の望む勉強会などを実施しています。 外部の研修会にも参加できるように研修の情報は伝え、参加者については勤務の調整などしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ICTを活用した防災訓練等で同業者との交流を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活歴、趣味、嗜好等をアセスメントし、その方の要望に傾聴しながら、介護プランを作成し、そのことを職員全員が共通認識の下に介護が出来、不安なく生活して頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の生活歴、趣味、嗜好等をアセスメントし、その方の要望に傾聴しながら、介護プランを作成し、そのことを職員全員が共通認識の下に介護が出来、不安なく生活して頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状を把握し、今何が必要かを見極めて、その時必要なサービスをご本人・ご家族と話し合い、臨機応変に対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にご利用者の立場に立ち、個々に合わせて喜びや不安を共有できる関係を築いていけるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が利用者に対して同じ認識が保てるように絶えず連絡し合い、協力し合い、ご本人とご家族が安心して暮らしていけるように配慮しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活歴を大切に、気軽に会いに来て、一緒に外出できるように支援したり、又、手紙のやり取りがいつでも出来るよう支援させて頂いております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や昔の遊びなどレクリエーションを実施して、皆様が参加できる時間を多く作り、お互いに関わりが持てるようにし、孤立感を味わうことのないように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても遠慮なく、いつでも家族が相談できるよう支援しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情、態度から本人の真意を察し、望まれている生活に添うことができるよう努めていきます。困難な場合は家族の思いや意向を聞き取り入れています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	言葉や表情、態度から本人の真意を察し、望まれている生活に添うことができるよう努めていきます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、今の現状を把握し、一人一人に合った環境での支援をしていけるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれご利用者の意向や能力を活かせるように配慮しながら、カンファレンス等で職員の意見を聴取し、またご家族の思いを取り入れながら介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に残し、職員全員がご利用者の状況を共有し、業務に従事するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状況に合わせ、臨機応変に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源を活用し、地域と協力しながらイベント等にも参加できるよう支援し、施設内でのレクレーション等では季節を楽しめる工夫をし、心豊かな生活が送れるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医となっていますが、当グループホームは、連携医療機関の主治医が月2回往診に来られますので、ご本人・ご家族の希望を優先し決めております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携体制をとっており、馴染みの看護師が利用者の健康管理や医療相談に関わっています。 24時間の連携を取っておりますので、夜中でも緊急時には駆けつけていただけます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関と連携を図り、情報交換に努めています。 管理者などが、利用者を見舞い、状況把握に努め、早期の退院の機会を逃さないようにしています。また、退院後も情報交換を常に行い、医療機関の支持を仰ぎながら介護に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時の指針を定め、ご家族に説明し、同意を頂いた方につきましては、医師や看護婦と相談した上でできるだけご家族の意向を汲み取るようにしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々のケアに急変や事故発生等、その都度対応し、後日ミーティング等で見直しをしています。医師、看護師と常に連携を図り、指示を仰いでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、災害時に対応できるように訓練を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心を傷つけないよう、さりげない声かけに心掛けています。 一人一人のプライバシーを尊重し、誇りを傷つけない対応を心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	上手に表現できない方の表情や動作など見逃さないよう、何を伝えたいのか把握できるように努めています。また、ご本人が自己決定できるよう、出来るだけ多くの選択肢を提案し、個人の希望に答えられるよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはありますがご本人の希望を優先して過ごしていただけるよう、また、ご本人の気持ちを尊重して臨機応変に対応しています。 生活の流れを職員が決めるのではなく、利用者様本位の流れで生活できるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装はご本人に選んでいただけるようにし、毎日のお化粧も変わらずできるように環境を整え、希望される化粧品等は買い物代行し、おしゃれを楽しむ気持ちを無くさないように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はスタッフと一緒に取り、コミュニケーションを取りながら、楽しく食事が出来るような雰囲気作りを心掛けています。また、希望を取り入れながら、一緒に献立を考えています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量や水分量を毎回記録し、残食が体調によるものなのか、嗜好によるもののかを把握し、職員が情報を共有して、状況に合わせて調理方法を工夫したりして、栄養が偏らないようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、一人一人ができるだけ自分で実施できるように支援しています。訪問歯科医による口腔ケアの指導も職員が受け実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行う。しぐさや行動などから排泄したかどうかを読み取り、トイレでの排泄を促し、適切な対応ができるようにしています。利用者様の現状に合わせたおむつやリハビリパンツを選択し自立にむけた支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事・繊維質の多い食材を取り入れるなど食事に気をつけています。また、体操など適度な運動を実施し、出来るだけ自然排便が出来るよう心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日・入浴時間は決まっていますが、一人一人の体調、その日の気分や希望に合わせて臨機応変に対応しています。又、季節を感じてもらう為、菖蒲湯やゆず湯を楽しんでいます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムを大切に、日中の活動を重視しながら、夜間睡眠の妨げにならないように配慮しながら、休息を取って頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・用法・副作用などについて、職員全員が把握し、誤薬、飲み忘れがないように服薬確認を徹底しています。また、服薬時は、ご本人がきちんと飲み終えたかも確認しています。薬の形態を工夫し飲みやすいように工夫をして		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の長所を活かし、今までされていたことで、出来ることはなるべくしていただけるように、掃除の手伝い、洗濯物たたみなどをしていただき感謝の言葉を伝えるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて普段の外出が困難だが家族やボランティアの協力を得て外出の機会を増やしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物がある時は買い物リスト等を書き出し、職員が代行にて買い物支援をしています。又、外出時に自分で買い物できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への手紙や年賀状などの発送、受け取りの支援をしたり、電話をかけたい方への支援は随時行っています。 主治医が往診時に、他の施設の入居者様より手紙を預かってきてくれたりします。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられる作品と一緒に作成し、その作品を展示して、室内にいてもいつも季節が感じられるように工夫しています。また、共有スペースの掃除や洗濯たたみなど一緒に行ったり、家庭的な雰囲気大切にしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お話しするスペース、作業をするスペースなど一人一人に合わせた場所作りに努めています。 廊下などに椅子を置くなどの工夫をして、独りになれる個人空間も設けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活で使用していた使い慣れた物を持ってきて頂き、落ち着いた生活、安心して過ごせる空間、希望する空間などの空間作りに配慮しています。 危険のない様、安全に使って頂けるよう工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーや手すりの設置、エレベーター設置など安全に過ごして頂けるようになっています。 見間違えやすいもの、わかりづらいものは出来るだけ無くし、不安のない生活ができるようにしています。		